

# 願成寺報

平成二十六年十一月二十八日

〒四四〇・〇八二二 豊橋市東新町二十八番地

☎ 〇五三二・五二・九六〇一

## 報恩講のご案内

今このままを慶ぶことが仏様への報恩です  
そのままの慶びをご一緒に  
見つめ直しましょう

## 餅つき会

恒例となりました、草取りと餅つき会をします。  
秋彼岸では沢山の方にご協力頂き、楽しくできました。  
今回も楽しく過ごしましょう。



十二月 四日(木) 午後一時 餅つき会

六日(土) 午後一時半 法要・法話 住職

午後四時 お非時(お雑煮)

午後五時 法要・法話 住職

七日(日) 午前十時 法要・法話 岡崎市浄泉寺 戸田信行師

午前十二時 お斎(昼食)

午後一時半 法要・法話 岡崎市浄泉寺 戸田信行師

## 「人生を懸けての問い」

テレビドラマには必ず「問い」があります。

例えば「犯人は誰か」「彼女はどの先どうなるか」とか。

答えを考えながら、次回の放送を楽しみにすることになります。  
大変よく出来ています。

「問い」がなければ意味を見出すことは出来ません。

「問い」が豊かな人生の決め手だと思えます。

「学問とは問い方の学びである」と書いた本がありました。

「勉強がつまらん」と言っている高校生には、

その学問に対する「問い」がないのだと思います。

さて、人生を懸けての問いは「どんな問い」なのでしょう？

導かれる答えが人生の意味なので、しっかり考えたいものです。

・私の一番大切な願いは何か？

・何故それを願うのか？

・そのために何ができるのか？

…



宗教は、これら私の問いの「止め方」を教えるのかも知れません。

問うことが生きることであれば、死はそれを断絶します。

いつでも止められるようにしておくことが、

死への準備になります。

阿弥陀する無限のいのちが、その続きを担ってくれると実感でき

れば、安心して回答を書き続け、いつでも中断できるでしょう。

私達の称えるお念仏は、私の小さく個人的な疑問と、大きないの

ちへの信頼を結びつける、大切な媒体なのかも知れません。

弥陀の尊号トナエツツ 信楽マコトニウル人ハ

憶念ノ心ツネニシテ 佛恩報ずるオモヒアリ

《正像末法和讃・親鸞聖人》

## ● 正信偈ノート ⑬ ・ 竜樹章 I

書き直しを恐れず、今、思い浮かぶところを書き留める

釈迦如来楞伽山 為衆告命南天竺  
龍樹大士出於世 悉能摧破有無見

黄色の勤行本の

二十六ページから

釈迦如来、楞伽山にして、衆のために告命したまわく、  
南天竺に龍樹大士世に出でて、  
ことごとくよく有無の見を摧破せん。

・ 楞伽山

釈尊が『楞伽経』を説かれた山。  
場所については諸説あり定かではない。

・ 楞伽経

竜樹菩薩が南印度に出現すると預言したお経。  
今回の偈文は全てこのお経に依っている。(筆者)

(浄土真宗本願寺派・注釈版聖典より)

・ 竜樹菩薩

七高僧の第一祖、梵名ナーガルジュナ。仏滅七百年(二世紀)ごろに活躍した人。南インドの婆羅門の家に生まれ、子供時代から優れた才能を持ち、青年時代に親友の惨死を見て仏門に帰した。広く仏教内外を学び、大乘仏教の基礎を整備した。日本では、八宗の祖師と称されている。

多数の著作があるが、『十住毘婆沙論』の「易行品」を著したことで浄土教の祖師とされる。

主な著作

『中論』 空思想を展開した書

『大智度論』 仏教百科の書

『十住毘婆沙論』



十地経に依り菩薩の思想と実践を説く  
特に「易行品」では浄土往生の易行を説く

・ 有無の邪見と空の概念

仏教では「流転輪廻する我」「往くべき世界(浄土)」等が説かれます。同時に「諸法無我」にて「私の靈魂」はあり得ないと説きます。この有無で矛盾する状況を、どうなっているのかと考え、無理に答えを出したり、論じたりすると「有無の邪見」となるようです。

理解不能な事柄を理解しようと拘る心が邪見を生むとされます。理解しようとする心を翻して、仏に預けることが必要なのだと。

仏の働くフィールドを「空」と呼ぶのかも知れません。その働きの中の存在として我を再発見する他ありません。

・ 我の確かさ

高校数学で微分積分を勉強した時、ビックリしました。点を無限に並べても線にはならないのです。線を作るには、短くても線分を集めなければなりません。

「群盲象を評す」という言葉で、凡人が偉人・大事業を理解しないことを表現しますが、凡夫が仏を理解し・納得しないのは当たり前です。けれど、凡夫も仏から働きを受けているならば、その働きに感応することが出来る筈です。もし感じ・目覚めることがないならば、私にとって仏の智慧も慈悲も絵空事となってしまいます。

仏に遇いたいと願った時、私の身体や心を分析しても叶いません。「ただ風に聞く」というような態度が大事でしょう。この時、自己都合での評価は禁物です。たとえ暴風であっても、聞こえた音をお陰様と戴いたなら、仏の働く私に確信が持てると思います。理解し納得することを止め、任せ戴き住持することにより深まる我があるようです。

## 創作・阿難尊者の廻心

容姿端麗、物腰柔らかで、しかも釈尊の従兄弟である阿難尊者は教団の人気者です。釈尊の侍者として過ごした二十五年は彼の宝物であり、自他ともに認める多聞第一の仏弟子でした。

少しナイーブな所があり、取り乱しやすいのが欠点です。

釈尊が涅槃に入られた時、阿難は独り涙が止まりません。

「阿難よ、汝の悲しみは何処から来るのか？」

「世尊よ、私はまだ修行中の身であるのに師を失います」

「阿難よ、今こそ『自灯明・法灯明』を住持し努力せよ。既に全ては整っている。汝が阿羅漢になる日は遠くない」

釈尊入滅後、阿難は懸命に行じましたが悟りは得られません。

そんな時、仏典結集のニュースが舞い込みます。

教団を継承した大迦葉尊者が、四百九十九人の阿羅漢を集めて釈尊の説法を整理し、経として編纂するというものです。なんと阿難は、阿羅漢でないという理由で除外されていました。

阿難は大迦葉尊者を憤りましたが、それだけでは済みません。

釈尊に申し訳ない、後の行者に対しても大きな責任を感じました。

阿難に初めて、利他を思う心が宿り、焦りとして芽生えました。

早く悟りを：

多聞第一の故の、今まで感じたことのない重圧が阿難を襲います。申し訳ないが為す術がない、すでに時間もありません。

南无：

とその時、阿難は光に包まれ、懐かしい声で祝福を聞きました。

「悟り」とは、「自力の限界を発見すること」かも知れません。

それは仏典結集の日の朝の、その直前の夜の出来事でした。

『ブツダとその弟子の物語』菅沼晃著より創作

## 家族葬【私見？】

・葬送の最近の傾向

ここ十年間で葬儀の在り方がどんどん変化しています。

・葬儀式より通夜の方に弔問客が集まる

・喪主の同僚など間接的関係の弔問客の減少

・お金をかけない経済合理的な葬儀の増加

・因習・伝統・宗教に囚われない葬儀の増加

・本人による事前の準備や相談の増加

・家族葬の増加

葬送も個人主義化・合理主義化していくようです。

・本人による準備

立つ鳥跡を濁さずの思いから、準備をされると思います。

尊い思いですが、独りよがりにならない注意が必要です。

それが後の者にとって本当に迷惑なのかどうか：

「面倒臭かったけど大切なことに気づいた」経験はないですか。

「自分がしたことはさせてみる」という態度も必要です。

・家族葬

落ち着いて送ることが出来る良い面があります。

けれど右記の理由で煩雑が全て悪だとも云えません。

『厳粛な命の事実に目覚める大切な儀式』です。

肝に銘じて営みましょう。

どの人の弔意も妨げないための心得があります。

・他人の弔意を量らない

・関係先への連絡を怠らない

・急ぎ過ぎない

縄文人まで溯るお弔いの心を大切に伝えたいと思います。



# 行事予定 平成二十七年

月例会の開催日・開始時間を変更しました、ご注意下さい。

## 一月一日(木・祝) 修正会

お正月のお勤めです  
簡単なお節も準備します  
午前十一時

## 三月二十一日(土・祝) 春季彼岸・永代経法会(成田屋紫蝶師)

落語と法話で楽しく過ごします  
お非時(昼食)あり  
午前十時

## 八月十五日(土) お盆・歓喜絵(住職)

法要・法話で泣き人を偲びます  
軽食・花火あり  
午後六時

## 九月二十三日(水・祝) 秋季彼岸・永代経法会(戸田恵信師)

お馴染みの先生の情熱的な法話です  
お非時(昼食)あり  
午前十時

## 十一月三日(火・祝) 本山納骨堂法会・団体参拝

本山へ貸切バスにて団体参拝します  
午前七時ごろ集合

## 十二月五日(土)

六日(日) 報恩講

御開山聖人御恩に報いる法会です  
お非時(昼食)あり  
五日 午後一時半から  
六日 午前十時から

## 二〇二〇年十二月

### 第一火曜日

### 月例会

毎月一日だったのを変更しました  
参加者が減っていますが続けます  
午後一時半

## 後記

○ 幼児を抱えたお母さんを集めた会で「子育ては、なるようにしかならない」と話したら、思いの外うけました。緊張の緩和。どのご家庭の子育ても緊張の連続なのだと思います。

この言葉は、トランスパーソナル心理学の諸富祥彦先生の受け売りですが、共感される方が多いと思います。

○ 「なるようにしかならない」は、親として投遣りな感じがする、溜息のような言葉ですが、二つの問いを含みます。

・ 子育てで満点取ろうと頑張ってますが、何が満点ですか  
・ 子供の育つ力を信じられませんか

教科書どおりに育てることを目指した場合、教科書どおりの子供はいない訳だから、必ず行き詰まります。苦しい子育ての先には虐待が待っているかも知れません。「こうあるべきだ」という満点の姿は、本当に満点なのか、誰にとつての満点だったのか、疑ってみる必要があります。

この子のこのままが満点という眼も持つておくとも良いでしょう。

○ 叱責の中で育つより、笑顔の中で育つ方が良いに決まっています。親の笑顔の中で子が育ち、子の笑顔が親を育てます。

そんな子育てには成功も失敗ありません。「思い通りじゃないけれど充実している」は、そんな拌みあう関係の中でのみ実現されるでしょう。

○ 「南无そのまんま、そのまんま」

仏教評論家のひろさちやさんが講演会で称えておられました。折角の拌みあう関係を、自らの執着心で壊してしまう私達だからこそ、そんな風に称える必要があるのでしょうか。

もし南无阿弥陀仏と称えるならば、  
拌む私が、仏様からも拌まれていたことを、  
きつと発見するでしょう。

